

2025年12月24日 IRセミナー

本学IRデータの活用事例

東京医科大学教育IRセンター

瀬戸山陽子

setoyama@tokyo-med.ac.jp

東京医科大学

- 東京医科大学医学部（医学科・看護学科）
- 教育IRセンター 2015年～

- センター長：1名
- 専任教員：1名
- 非常勤教員：1名
- 非常勤助手：1名



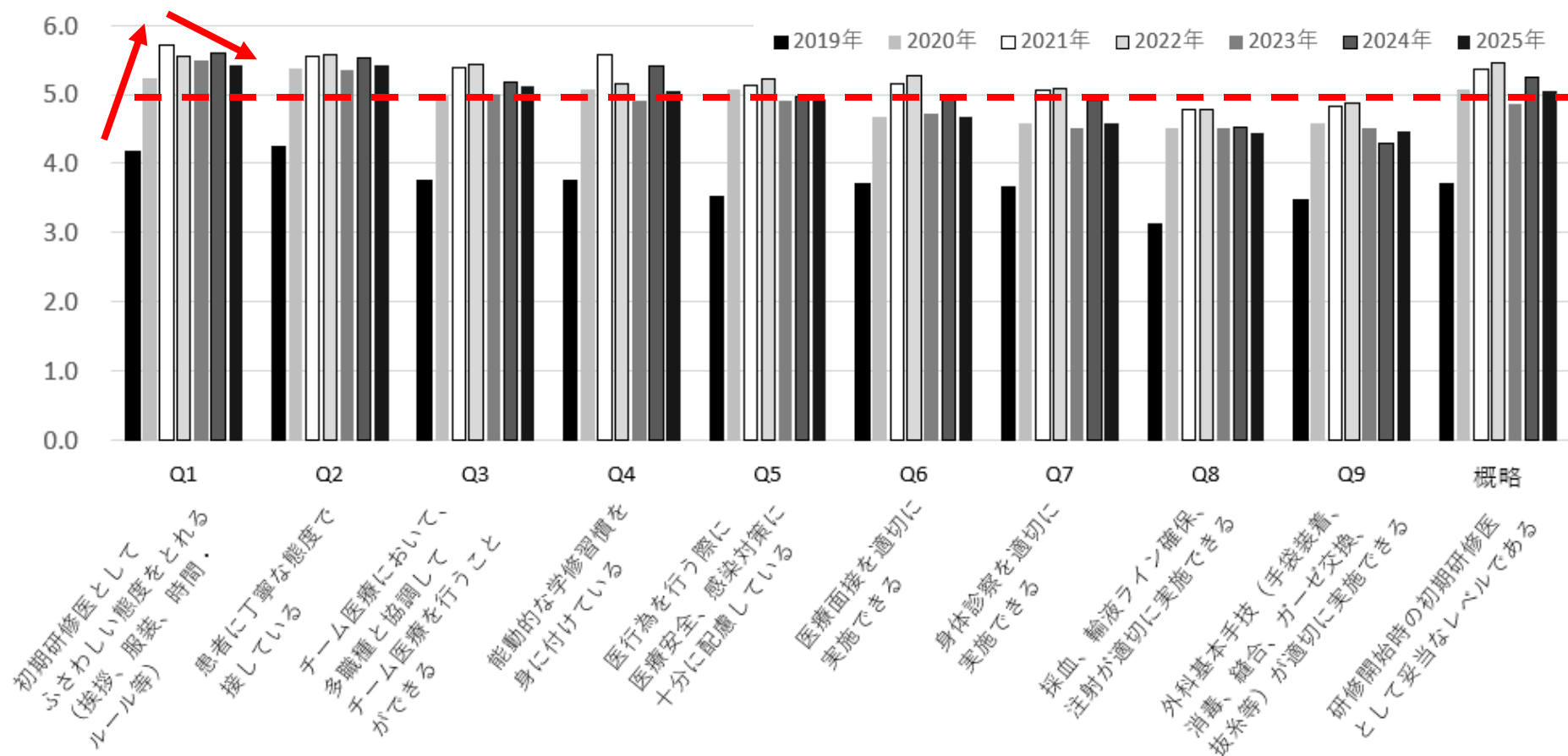
本日は紹介するIRデータの活用事例

- 事例1：臨床実習の改善
- 事例2：基礎医学・臨床医学統合の導入
- 事例3：国際化の推進
- 事例4：データサイエンス科目の導入

事例Ⅰ：臨床実習の改善

●2019-2025年度初期研修医アンケート

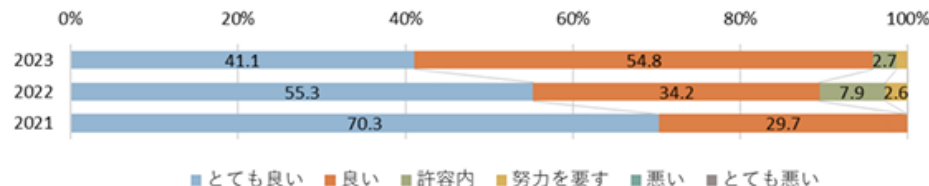
- ・ 調査時期：研修開始時（4－5月）
- ・ 対象：東京医科大学病院及び他病院に就職した初期研修医
- ・ 評価者：各研修医に対する指導医



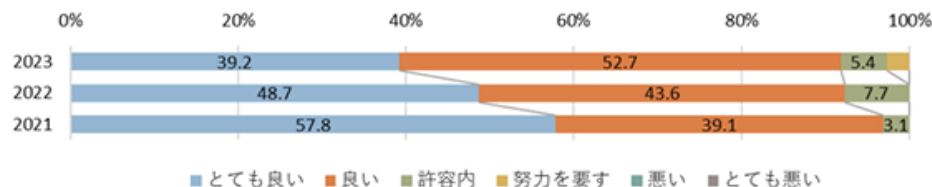
2022年度以降は低下傾向。全体では、処置の技能、臨床推論が低迷

●2021－2023年度研修医アンケート（詳細）

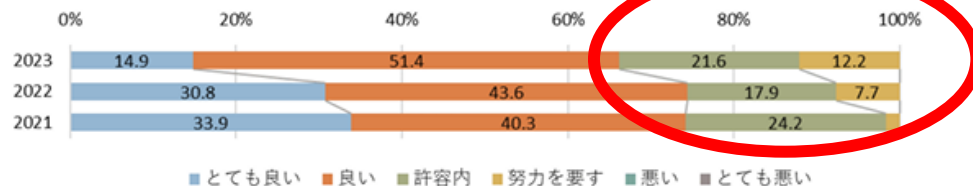
問1 初期研修医としてふさわしい態度をとれる(挨拶、服装、時間・ルール等)



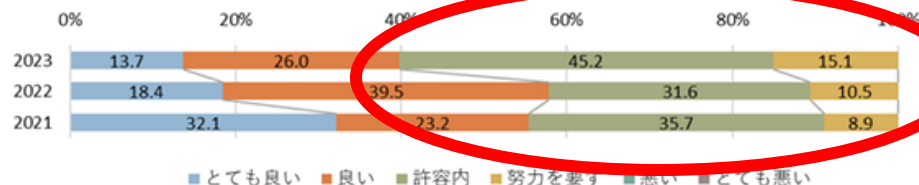
問2 患者に丁寧な態度で接している



問7 身体診察を適切に実施できる



問8 採血、輸液ライン確保、注射が適切に実施できる



診察技能、処置の技能は、
他より「努力を要す」「悪い」の
割合が高い

●2021-2024年度教育到達目標アンケート（主観評価）

- ・ 調査時期：卒業式（3月）
- ・ 対象：6年生（調査は、2，4年生にも実施）
- ・ 調査方法：紙もしくはウェブでの自記式アンケート

2023教育到達目標調査

- ・ 自分の力で問題を発見し、問題解決ができる。
- ・ 得られた情報を分析し、その信頼性を評価できる。

自分の思考を客観的に観察し、制御できる。

31. ・自分の力で問題を発見し、問題解決ができる。・得られた情報を分析し、その信頼性を評価できる。

32. ・様々な情報を患者や医療者が理解できるよう伝えられる。・患者や医療者の情報を正確に理解できる。

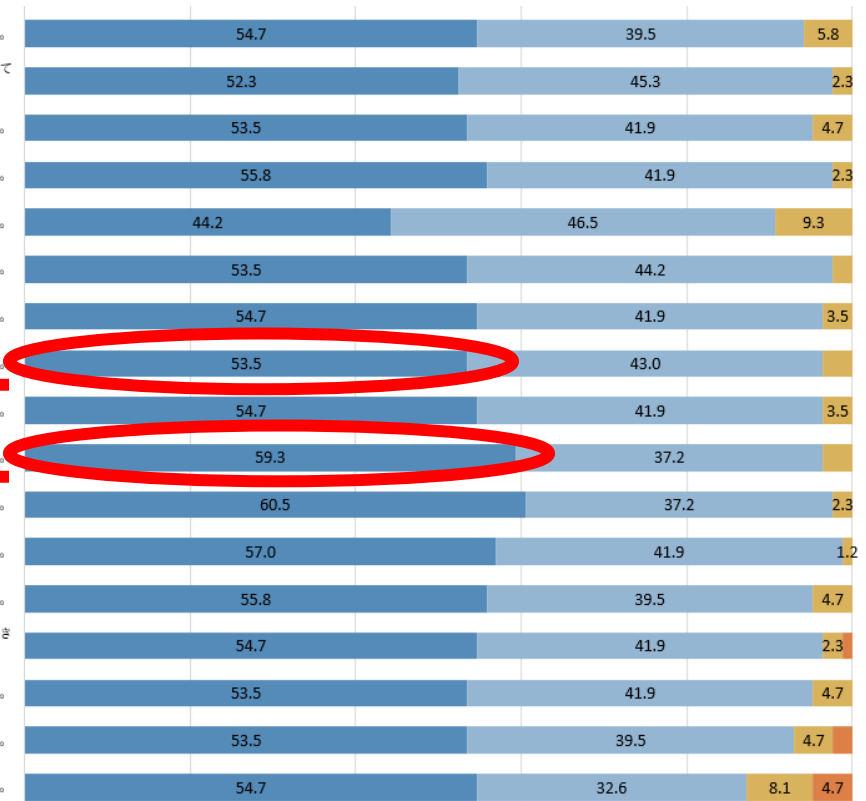
33. 自分の思考を客観的に観察し、制御できる。

34. ポートフォリオを活用し、自分の思考を客観的に監視・評価・改善できる。

38. EBMの概念と論文の主な種類について説明でき、情報の監理と管理ができ、臨床実習に情報を活用し応用できる。

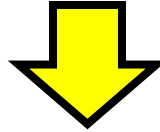
39. 情報利用をめぐる著作権と個人情報について説明でき、情報を合法的・倫理的にアクセスし利用できる。

40. 統計解析ソフトウェアを用いてグラフが作成でき、様々な計算、検定、図解分析ができる。



●調査結果をもとにした臨床実習の改善点

臨床実習で獲得すべきコンピテンシー
(特に診療技能、処置の技能、臨床推論)が顕著に不十分



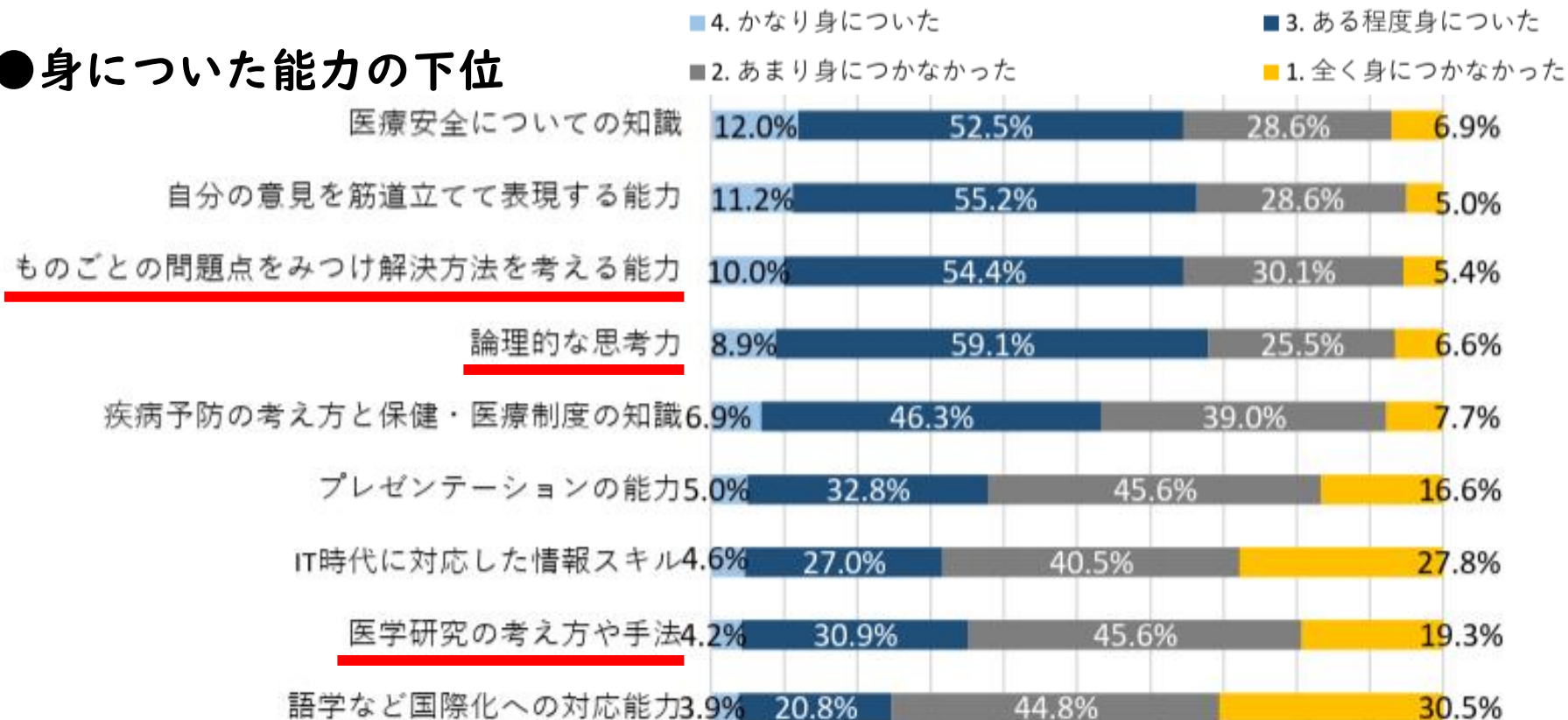
1. CC1で沖縄県立中部病院方式臨床推論ミニレクチャーを導入
2. CC1で習得すべき手技123項目を設定し、教育推進センターが実施状況を管理
3. CC2で「医療面接、身体診察、診療録記載、プレゼンテーションの必須化」
4. CC2で評価法をCC EPOCに改編
5. CC2でmini CEXの導入
6. CC2でLICを導入
7. 沖縄県立中部病院での教員実習実施

事例2：基礎医学・臨床医学統合の導入

●2022年度卒業生アンケート

- ・ 調査時期：1月
- ・ 対象：卒後1, 2, 5, 10, 15, 20, 30, 40年の卒業生
- ・ 調査方法：ウェブによる自記式アンケート

●身についてた能力の下位

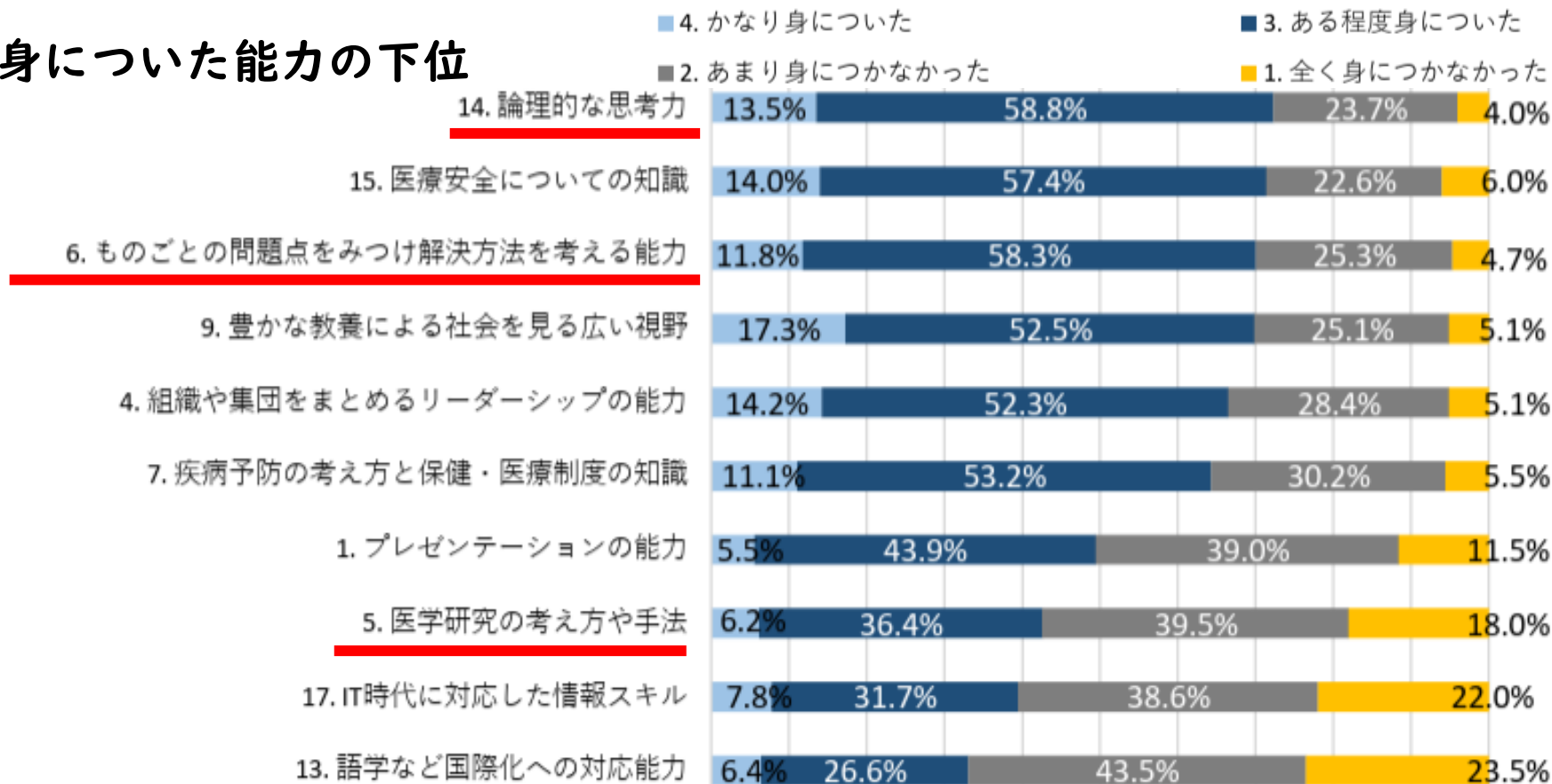


「かなり身についた」が低い項目に、
「ものごとの問題点を見つけ解決方法を考える能力」や
「論理的な思考力」「医学教育の考え方や手法」が見られる。

●2023年度卒業生アンケート

- ・ 調査時期：1月
- ・ 対象：卒後1, 2, 5, 10, 15, 20, 30, 40年の卒業生
- ・ 調査方法：ウェブによる自記式アンケート

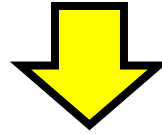
●身についた能力の下位



年度を変えても、「かなり身についた」が低い項目に、
「ものごとの問題点を見つけ解決方法を考える能力」や
「論理的な思考力」「医学教育の考え方や手法」が見られる。

●調査結果をもとにした基礎医学・臨床医学統合の導入

「知識は習得できたが
課題の発見、論理的思考、研究の考え方が 修得できなかった」



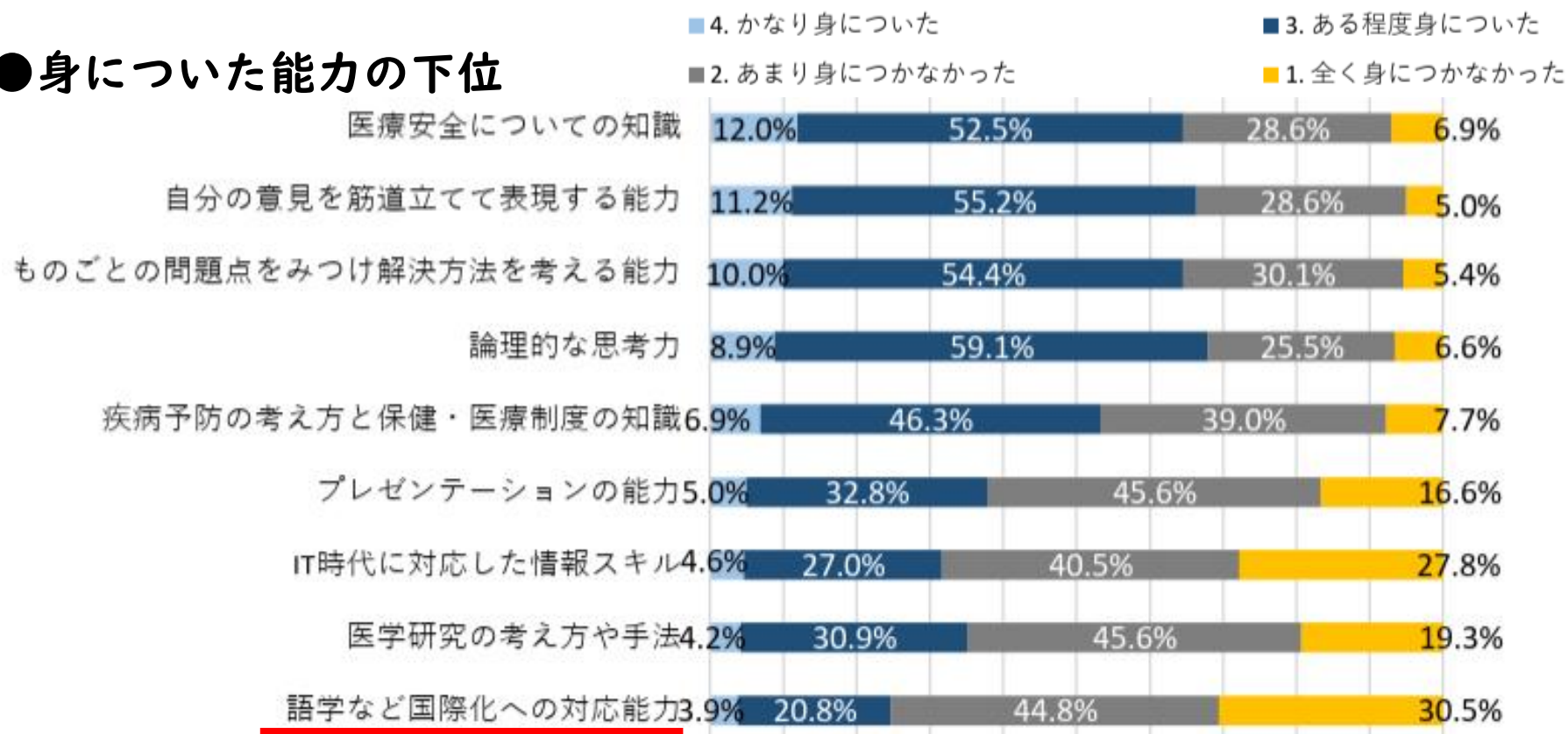
「基礎医学統合演習Ⅰ，Ⅱ」を導入し、
臨床症例を基礎医学の概念で考える演習科目を設置

事例3：国際化の推進

●2022年度卒業生アンケート

- ・ 調査時期：1月
- ・ 対象：卒後1, 2, 5, 10, 15, 20, 30, 40年の卒業生
- ・ 調査方法：ウェブによる自記式アンケート

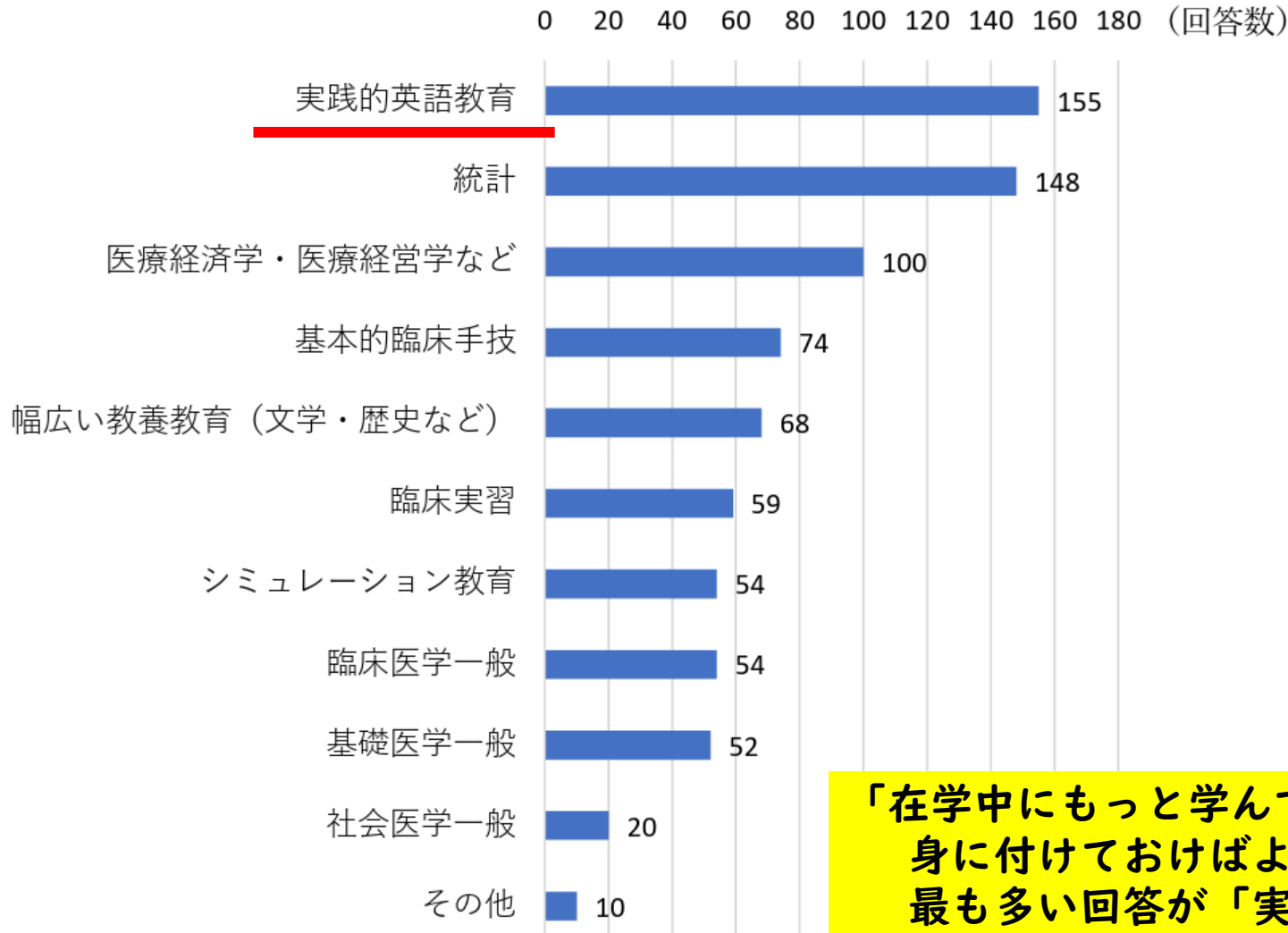
●身についてた能力の下位



「かなり身についてた」と回答した割合が最も低く、
「全く身につかなかった」と回答した割合が最も高いのが
「語学など国際化への対応能力」

●2022年度卒業生アンケート

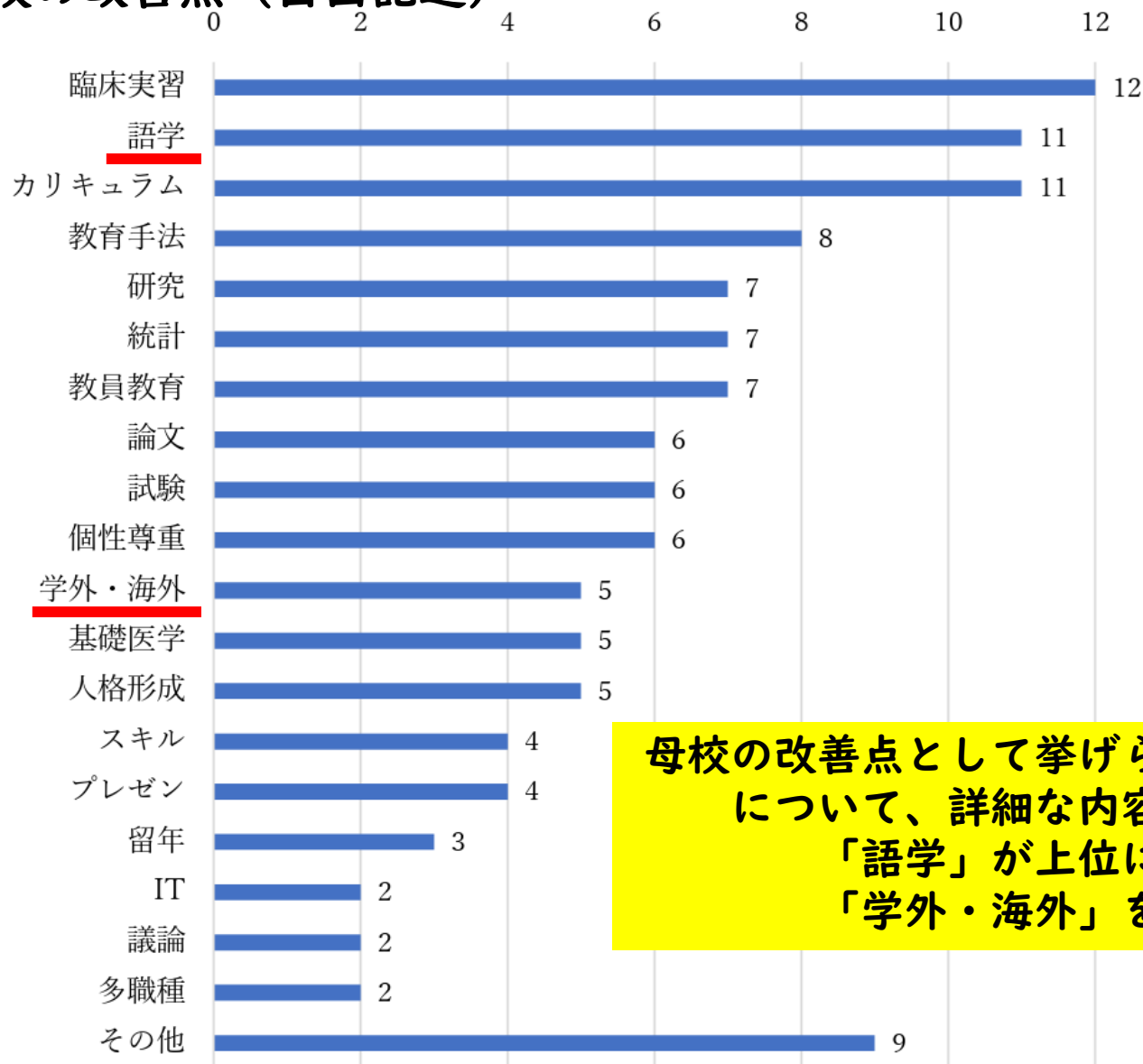
●在学中にもっと学んでおけばよかった、身に付けておけばよかったこと



「在学中にもっと学んでおけばよかった、身に付けておけばよかった」ものの最も多い回答が「実践的英語教育」

●2022年度卒業生アンケート

●母校の改善点（自由記述）

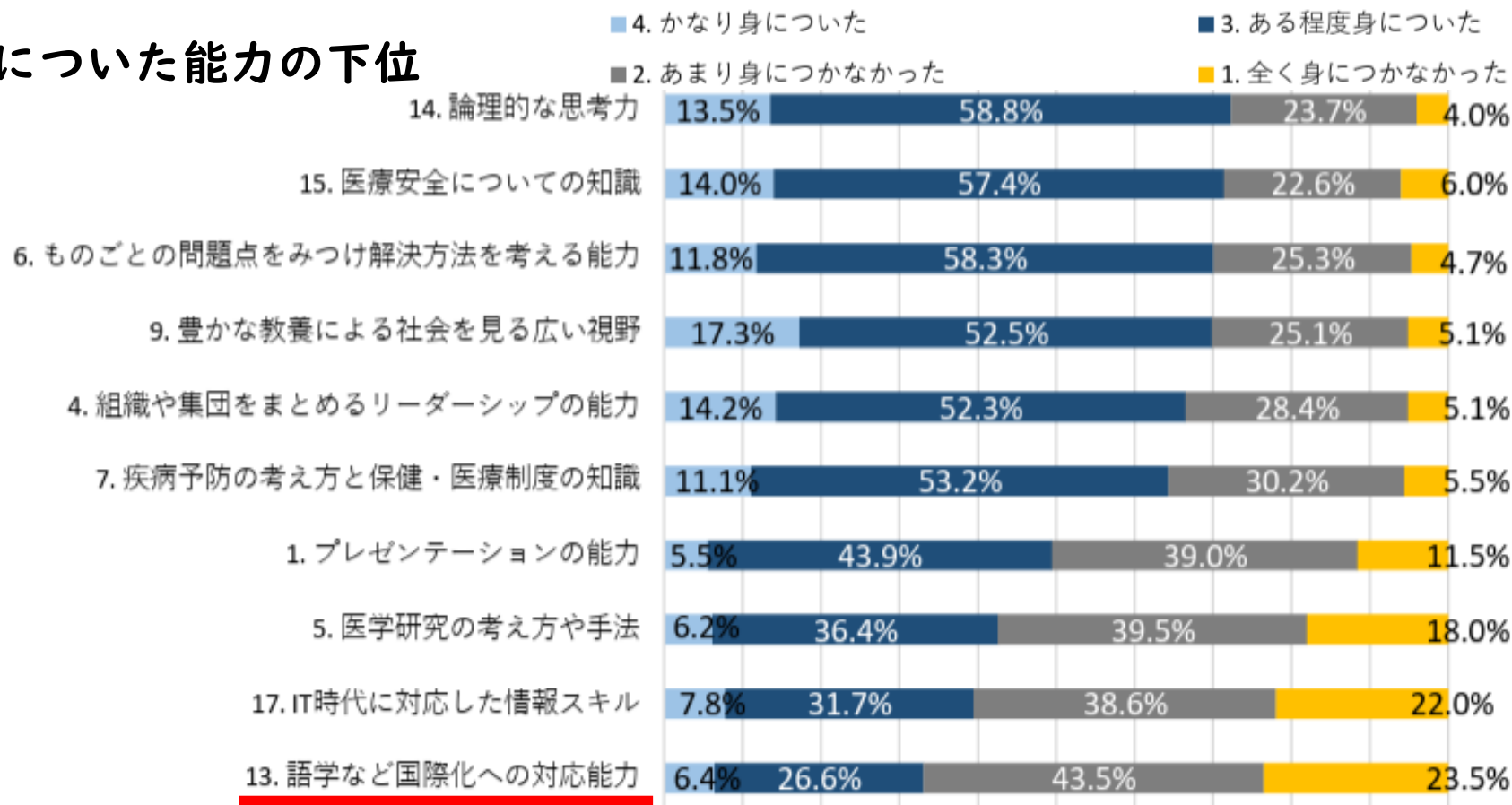


母校の改善点として挙げられた「教育改善」について、詳細な内容に分類すると「語学」が上位に挙がり、「学外・海外」を見られる

●2023年度卒業生アンケート

- ・ 調査時期：1月
- ・ 対象：卒後1, 2, 5, 10, 15, 20, 30, 40年の卒業生
- ・ 調査方法：ウェブによる自記式アンケート

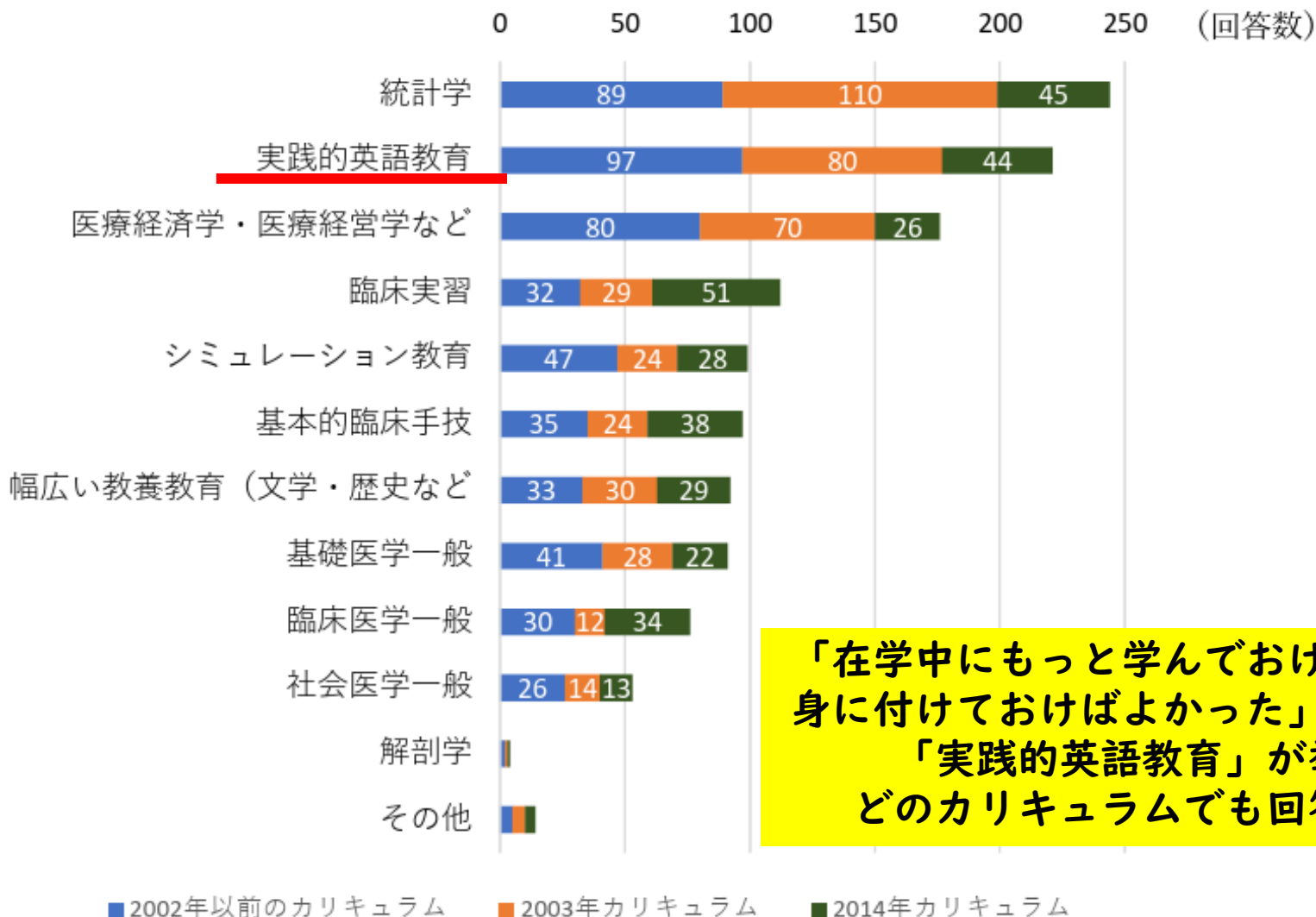
●身についてた能力の下位



年度を変えても、「かなり身につかった」と回答した割合が最も低く、
 「全く身につかなかった」と回答した割合が最も高いのが
 「語学など国際化への対応能力」

●2023年度卒業生アンケート

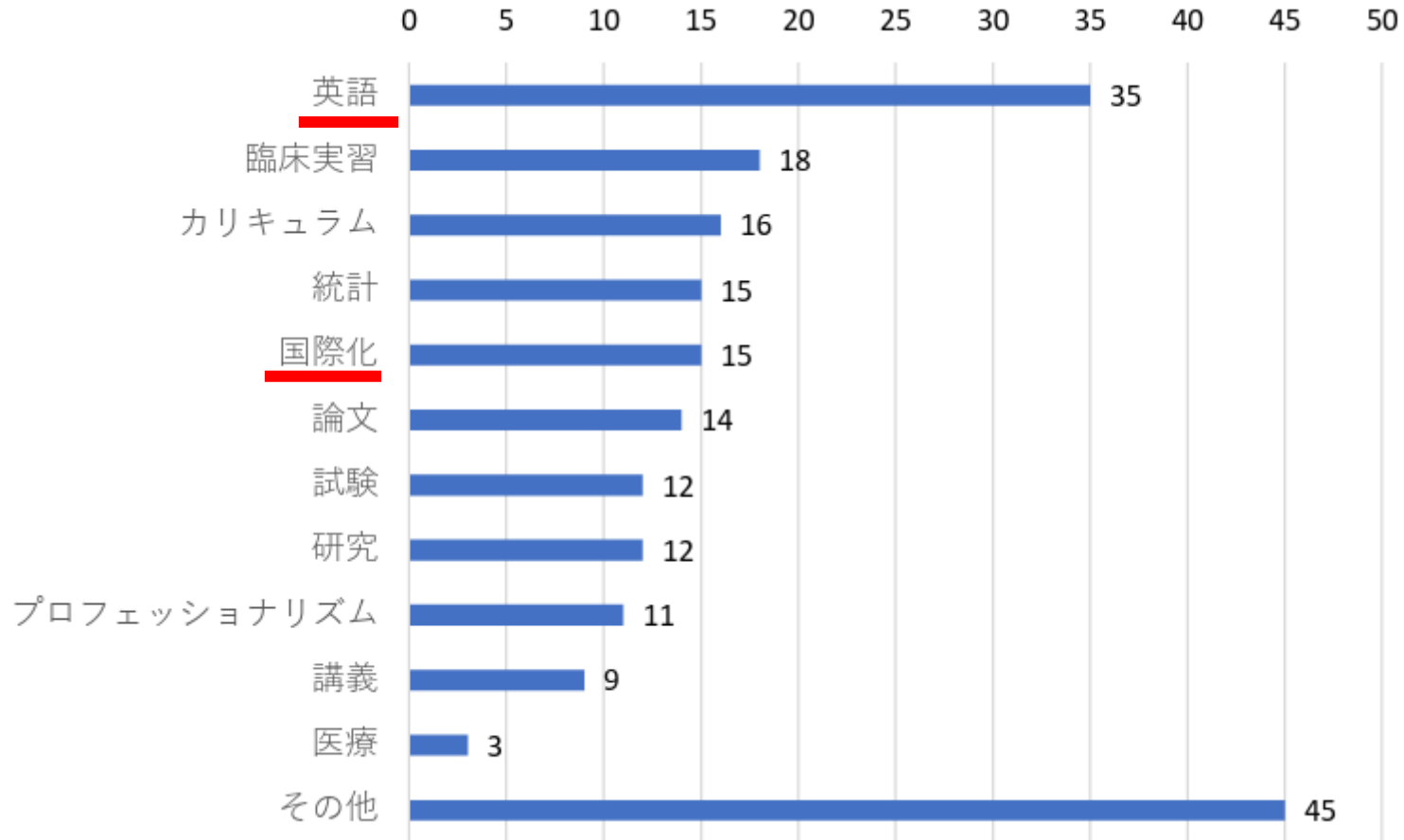
●在学中にもっと学んでおけばよかった、身に付けておけばよかったこと



「在学中にもっと学んでおけばよかった、身に付けておけばよかった」ものの上位に「実践的英語教育」が挙がる。どのカリキュラムでも回答が多い。

●2023年度卒業生アンケート

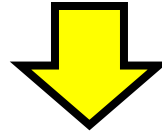
●母校の改善点（自由記述）



母校の改善点として挙げられた「教育改善」について、詳細な内容に分類すると「英語」が最も多く、「国際化」も含まれる。

●調査結果をもとにした国際化の推進

「英語教育の充実」を求める意見

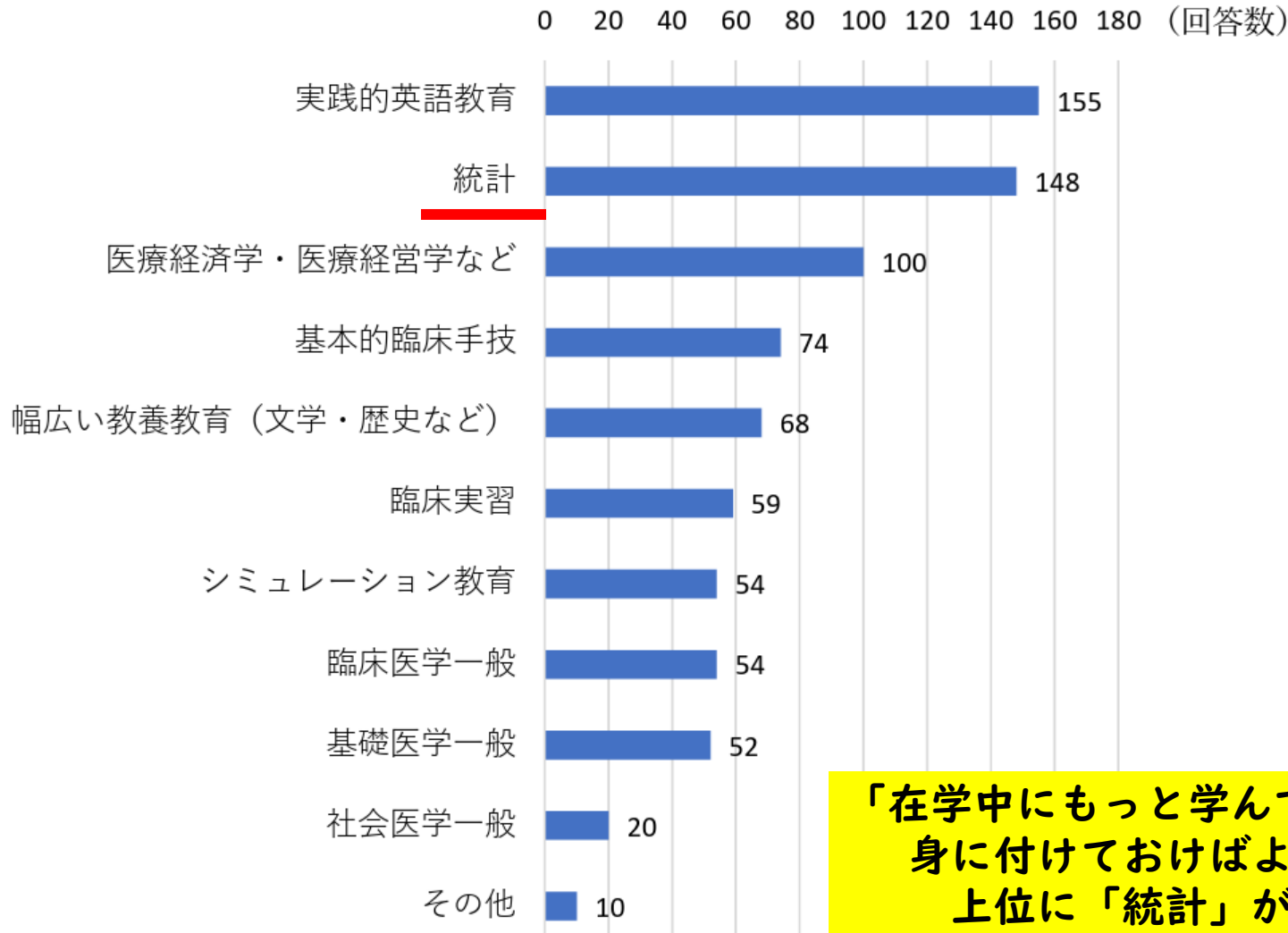


- ・ 低学年での短期留学制度を2種類（1週間と2週間）に増加
- ・ 6年間で最大7週間の留学が可能に

事例4：データサイエンス科目の導入

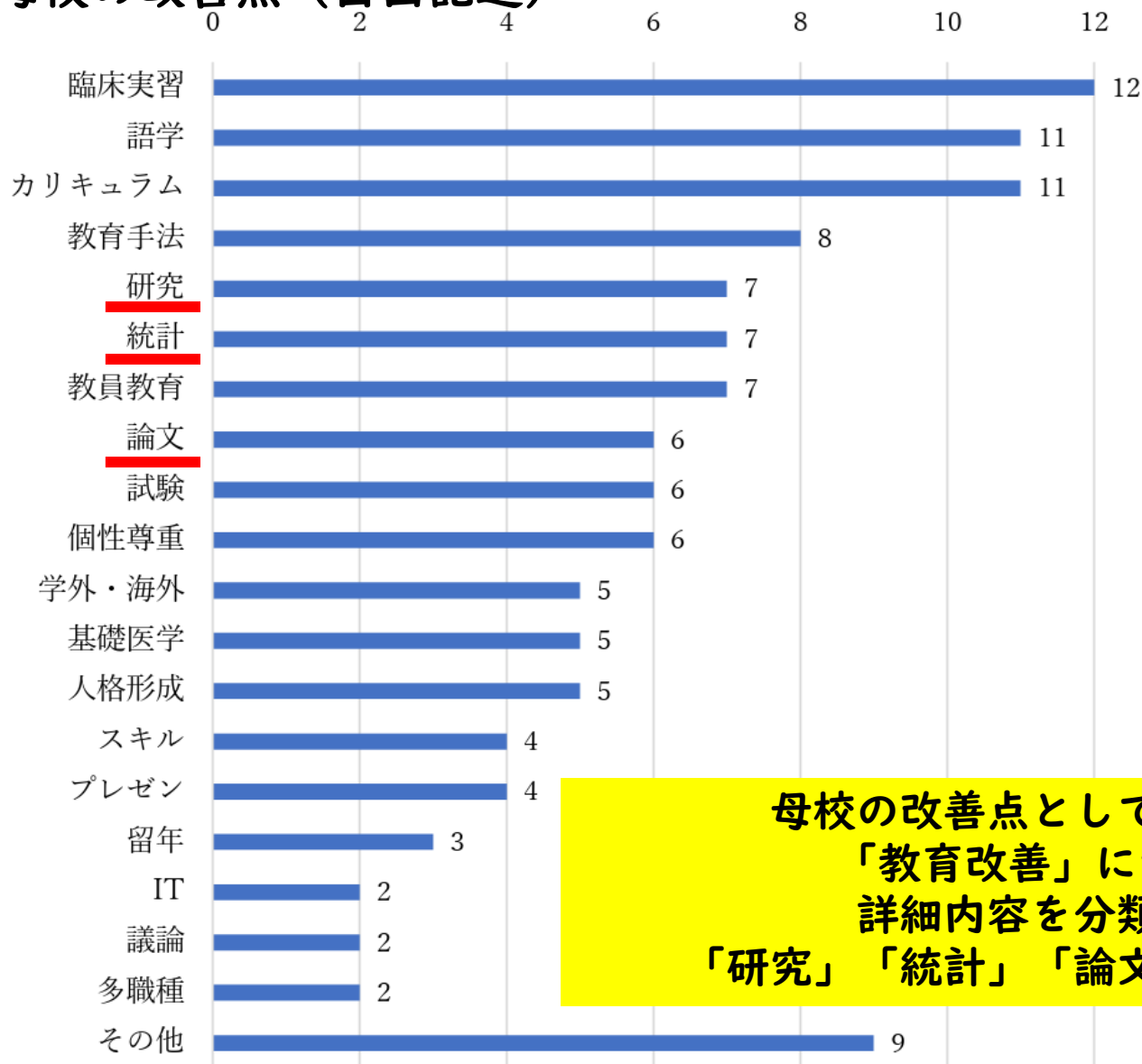
●2022年度卒業生アンケート

●在学中にもっと学んでおけばよかった、身に付けておけばよかったこと



●2022年度卒業生アンケート

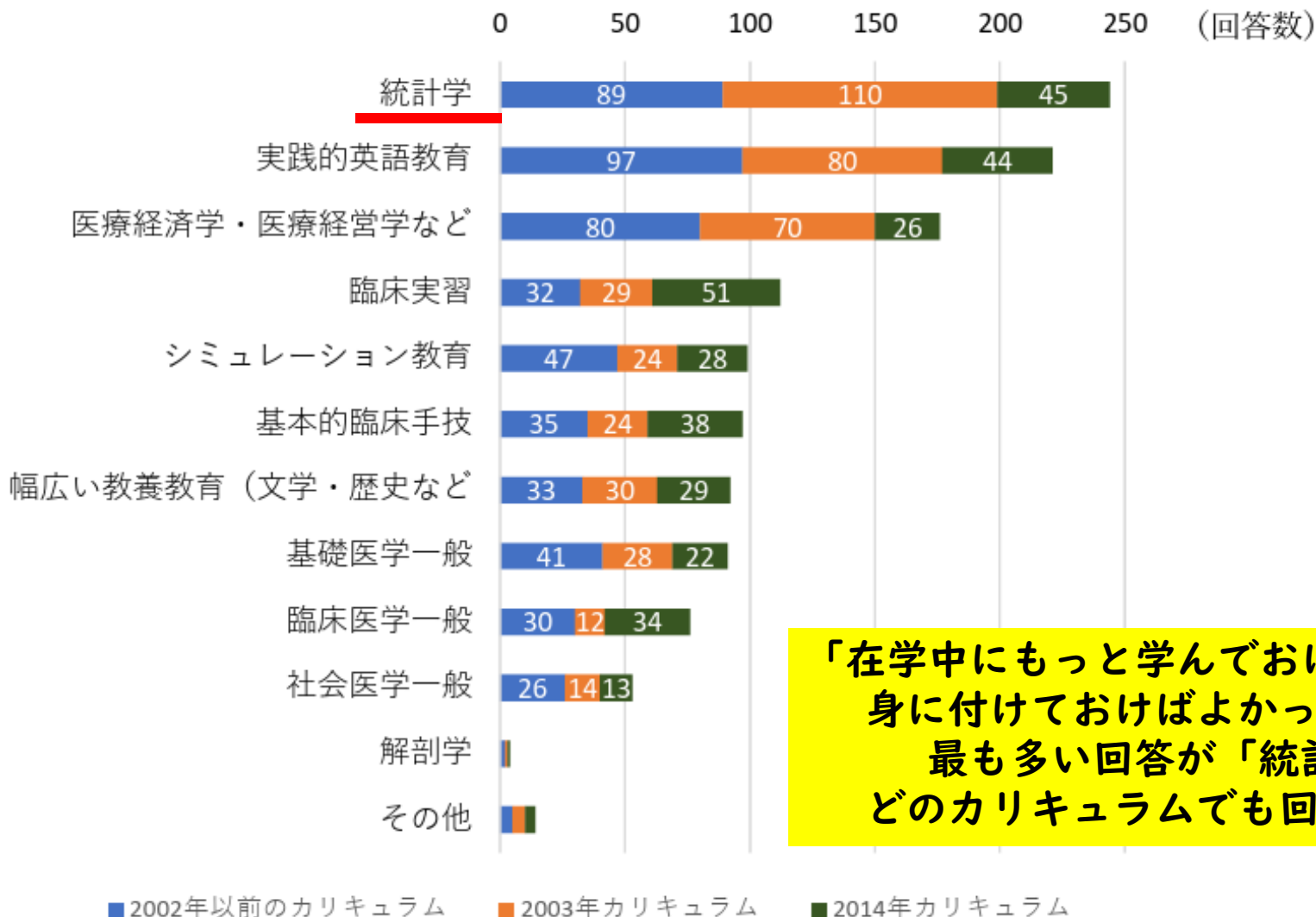
●母校の改善点（自由記述）



母校の改善点として挙げられた
「教育改善」について、
詳細内容を分類すると
「研究」「統計」「論文」が挙げられる

●2023年度卒業生アンケート

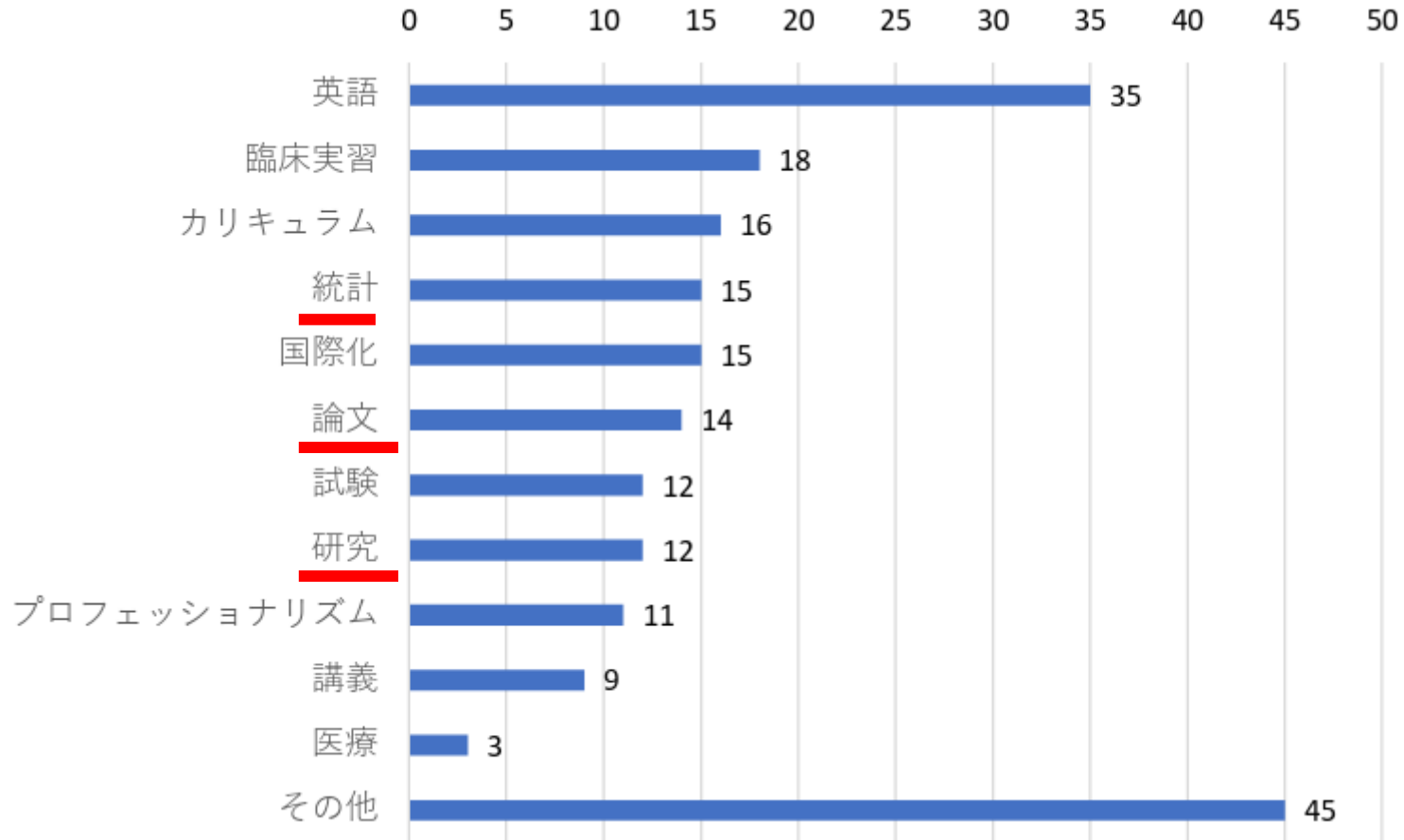
●在学中にもっと学んでおけばよかった、身に付けておけばよかったこと



「在学中にもっと学んでおけばよかった、身に付けておけばよかった」ものの最も多い回答が「統計学」。どのカリキュラムでも回答が多い。

●2023年度卒業生アンケート

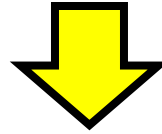
●母校の改善点（自由記述）



母校の改善点として挙げられた「教育改善」について、詳細内容を分類すると「統計」「論文」「研究」が挙がる。

●調査結果をもとにしたデータサイエンスの導入

「生物統計を学ぶ機会がなかった」といった意見から



- ・「データサイエンスⅠ」
- ・「データサイエンスⅡ」

これらの授業で段階的に
生物統計の理論から実践を学ぶカリキュラムに変更

●IRとしての今後の課題

<IRデータの「その後の活用」の把握>

- 依頼を受けて分析し、レポートを作成したのち
「どのように教育改善がなされたのか」が不明



- 依頼元への「ヒアリング」
- 依頼元からの「報告」

などを通じて、
今後のデータの在り方を改善につなげること